

親切は巡るもの

福岡県 屏水中学校 3年 渡辺 幸大

あなたは、親切というとはどんな考えをもつだろうか。難しいこと、勇気のいること、さまざまな考えがあるだろう。僕は、今回の経験を通して、親切について少し考えることができたような気がする。

夏休み、僕は高校受験に向けて、毎日塾の夏期講習に追われていた。僕は塾に行くのにバスを利用している。ある日の塾に行く途中のバスで、問題は起こった。

いつも降りるバス停に近づいてきたので、運賃を準備しようと財布を開くと、120円足りないことに気づいたのだ。よくよく考えてみると、昨日の塾の帰りにアイスを買ったので、財布の残金はいつもより減っていた。にもかかわらず、今日の朝は寝坊してしまい、親にお金をもらうことを忘れてしまっていたのだ。こんな経験はしたことがなく、背中を汗が伝ったのが、自分でもわかった。

(正直に運転手に言ったら、見逃してもらえるのだろうか、それとも……)

いろいろな考えが頭をよぎった。すると、必死に財布をかき回している僕を不思議に思ったのか、隣に座っていたおばあさんが僕に話しかけてきた。

「どうかしたの？」

「ええと、運賃が120円足りないことに今、気づいて……。」

「ほら、使いなさいな。返さなくていいから。」

「そんな、もらうわけには……」

「いいの、いいの。私もね、お金忘れちゃったことがあってね。その時に私も助けてもらったから。今度は私が誰かを助ける番。親切は巡るものなのよ。」

「ありがとうございます！次、会うときには絶対返しますから！」

僕は、とても温かい気持ちになったと同時に、おばあさんが言った「親切は巡るものだから」という言葉が、自分の中でぐるぐると回っていた。

今思うと、自分から助けを求めたわけでもないのに、何か助けを必要としていると感じて、僕に話しかけてくれたあのおばあさんの行動力は、とてもすごいと思う。到底僕にはできないことだ。けれど、おばあさんの言った「親切は巡るものだから」という言葉の通り、今度は僕が、誰かのことを助ける番だ。あのおばあさんの通りにはできないかもしれないけど、自分なりに、いつもよりも少し周りに目を向けて、困っている人を見つけ、助けられるようになりたいと強く思った。

あれ以来、あのおばあさんにはまだ会えていない。名前も知らない人だけど、いつかまた会って、お金を返せるように、120円は僕の制服のポケットにいつも入っている。